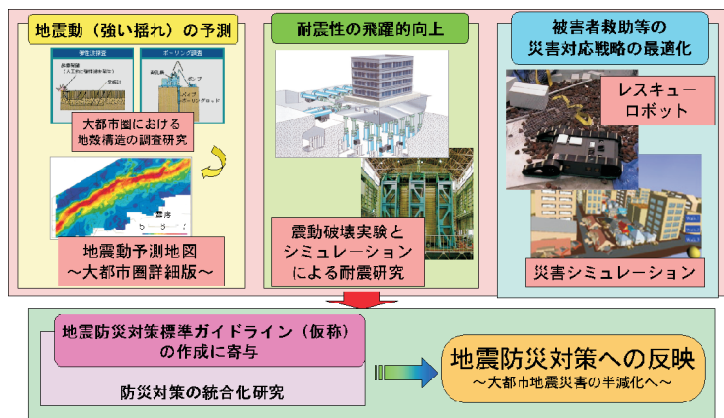


大都市大震災軽減化特別プロジェクト (大大特プロジェクト)

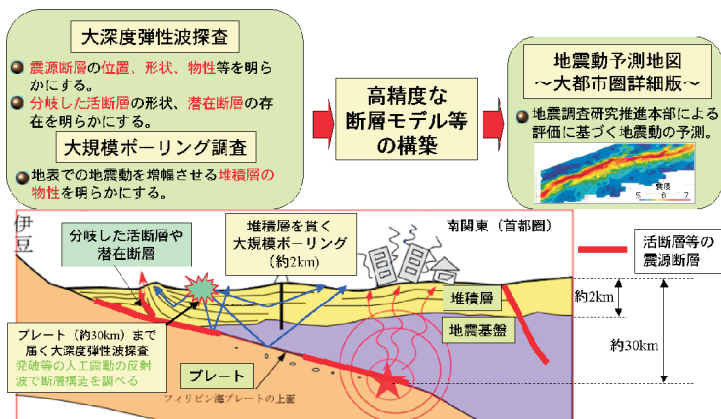
＜はじめに＞



地震研究所を中心としたグループでは主に「Ⅰ．地震動（強い揺れ）の予測」について研究をおこなっております。

＜プロジェクトの概要＞

地震動は予測できる！



地震発生源の特定が難しい関東平野南部を対象とした大規模な地殻構造の調査を実施しております。

→地震動予測（長期予測・強震動）のためのモデルを構築

＜長期予測＞

→いつ、どの程度の地震が発生するのか？

＜強震動予測＞

→地震が発生したら地域ごとに、
どのような揺れが発生するのか？

大大特プロジェクトの目的は

「首都圏や京阪神などの大都市圏において、阪神・淡路大震災級の被害をもたらす大地震が発生した際の人的・物的被害を大幅に軽減するための研究開発をおこない、地震防災対策に関する科学的・技術的基盤を確立する」ことであり、研究の内訳は4つにわかれています。

- Ⅰ．地震動（強い揺れ）の予測
- Ⅱ．耐震性の飛躍的向上
- Ⅲ．被害者救助等の災害対応戦略の最適化
- Ⅳ．地震防災対策への反映

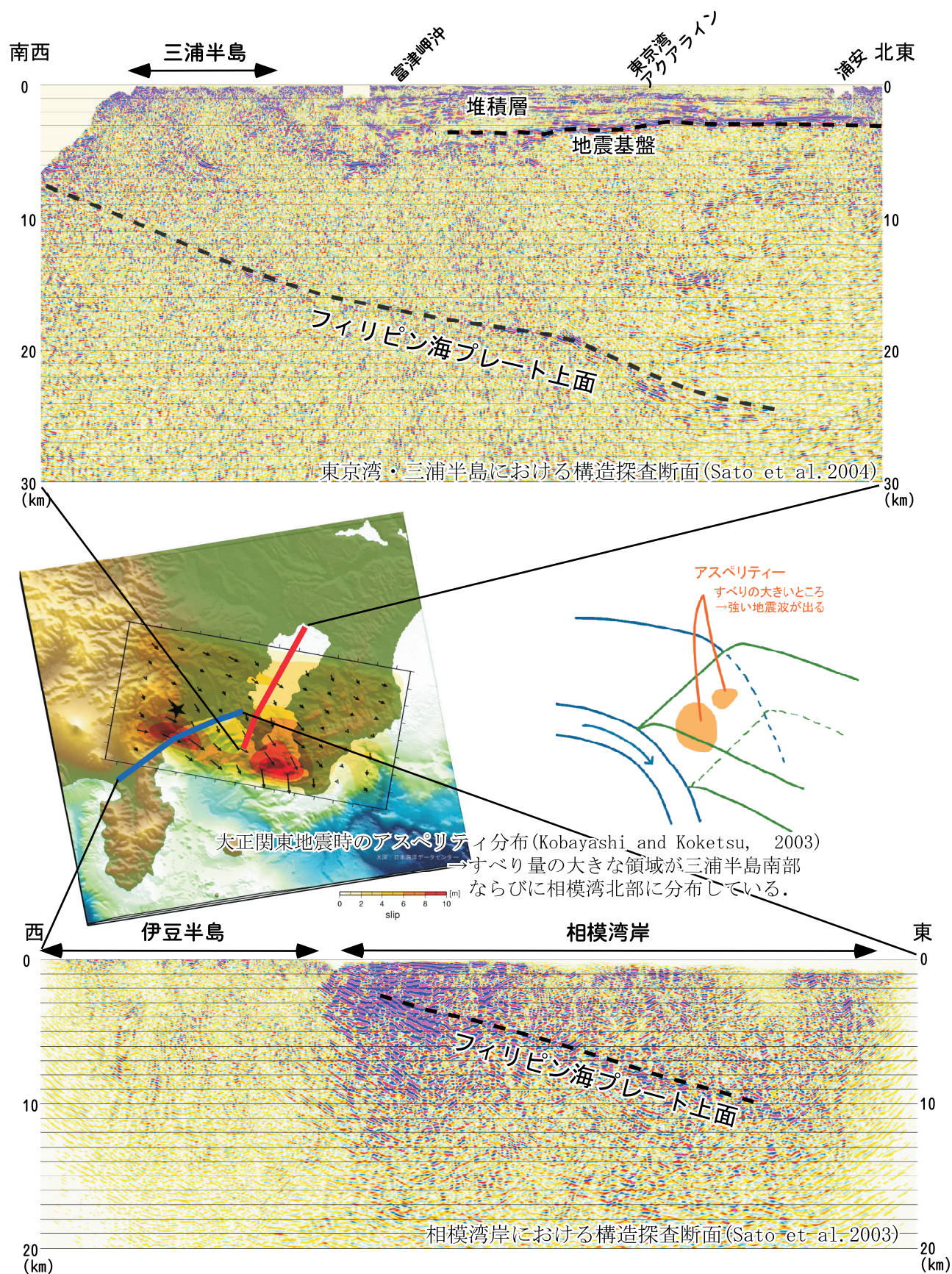
関東地方は本州側のプレート上に位置し、房総沖には、フィリピン海プレート・太平洋プレートという2つのプレートが沈み込んでいる地点（プレートの3重会合点）を間近に控えています。また、2つのプレートの沈み込みに伴って形成された盆地状の地形によって、日本最大の平野である関東平野が形成されております。平野部だけでも、なんと日本の人口の4分の1である約3300万人が生活しているのです。ひとたび大地震が起これば、その影響は計り知れないものになるでしょう。

大地震による被害軽減の為の対策は、地震動（強い揺れ）の予測ができれば可能と考えられています。しかしながら、地震動予測には地震発生域から地表までの詳細な構造が明らかとなっていなければなりません。

特に、地震を引き起こすプレート境界の関東地方直下での深度分布・地震波の振幅を増大させる、若い堆積層の分布や厚さ・・・などに関する現在の情報は不十分です。よって、本プロジェクトが大都市圏における防災対策の基礎的情報を取得する役割を果たしているのです。

＜これまでの研究成果＞

2002年度から実施された構造探査・波形解析などによって、大正関東地震（関東大震災）を引き起こしたフィリピン海プレート上面までの地下構造や地震時のすべり量・時間変化などが明らかになってきております。



ここではプロジェクトと一部の成果の概略を掲載しました。その他の成果や詳細はブースにて展示しております。皆様のご来訪をお待ちしております。